

<認知症対応型共同生活介護用>

<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1492400369
法人名	株式会社 ユニマツト リタイアメント・コミュニティ
事業所名	茅ヶ崎松尾グループホームそよ風
訪問調査日	令和4年2月18日
評価確定日	令和4年3月10日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和 3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492400369	事業の開始年月日	平成31年4月1日	
		指定年月日	平成31年4月1日	
法人名	株式会社ユニマツト リタイアメント・コミュニティ			
事業所名	茅ヶ崎松尾グループホームそよ風			
所在地	(〒263 - 0052) 神奈川県茅ヶ崎市松尾6-34			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	令和4年2月8日	評価結果 市町村受理日	令和4年3月23日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様がその方らしく生活できるよう、出来るところはご自身で、出来ないところはご支援させて頂き、寄り添う介護を目標としています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和4年2月18日	評価機関 評価決定日	令和4年3月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は株式会社ユニマツトリタイアメント・コミュニティの運営です。同法人は介護事業をはじめ、飲食・ライフプランニング・ホテル・コミュニティ・人材紹介事業・デリバリー事業・フィットネス事業・コンサルティング事業などの様々な事業を展開しており、介護事業においては全国33都道府県でデイサービス、ショートステイ、訪問介護、小規模多機能型居宅介護、居宅介護支援、定期巡回・随時対応型訪問介護看護等の在宅系介護サービスから、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等の入居系介護サービスまで、様々な利用者のニーズに合わせたサービスを展開しています。ここ「茅ヶ崎松尾グループホームそよ風」JR茅ヶ崎駅から「浜見平団地」行きのバスに乗り、「浜見平団地中央」下車して徒歩4分程の静かな住宅地の中にあり、近くには大規模賃貸住宅団地である浜見平団地もあります。

●コロナ禍の状況下において、外出レクを行えず、事業所で過ごす時間が多くなったことから、メリハリのない生活になりつつある現状を鑑み、日常生活の中で楽しみを見出すための工夫として、行事食や行事を開催するなど事業所内でできることを企画実行して取り組んでいます。また、外出機会がなくなったことにより、下肢筋力や認知機能の低下を防ぐためにも、アクティビティにかるた・トランプ・体操・ボールを使う体操などを取り入れています。

●新型コロナウィルスの蔓延長期化に伴い、新型コロナウィルス感染拡大防止マニュアルに則り、継続して利用者や職員の体調管理の徹底や感染防止対策に講じてきました。行政から情報収集も欠かさず行い、常に最新情報の把握に努め、万が一事業所関係者の中で感染者が発生した時の場合を想定し、各関係機関への連絡網の作成、保健所への必要提供書類などの一連の対応手順マニュアルを作成し、どの職員でも対応できるよう事務所内の目のつく場所で管理しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	茅ヶ崎松尾グループホームそよ風
ユニット名	A

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		4. ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
		4. 全くいない	
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を共有し、常にカンファレンス・全体会議などで話し合っている。	法人では企業理念、事業部としての理念を掲げています。介護事業部では「できなくなったことを再びできるように」を理念とし、朝カンファレンスや全体会議の場で共有し、共通認識を持って業務に努めています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中学校(市立西浜中学校)の研修(職場体験)を毎年受入れているが昨年度からコロナの影響で実施できていない。	職員の出退勤時や散歩にお連れした際にすれ違った地域の方とは挨拶を交わしていますが、感染症拡大防止の観点から直接の交流機会は設けられていませんが、コロナ禍が収束次第、中学生の職場体験の受け入れを再開したいと考えています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症、グループホームについて電話や訪問者に対して質問等に対応している。いつでも見学出来る態勢が出来ている。必要に応じて地域包括センターを紹介することが出来る。本年度もコロナの影響で一部分の見学になる為、施設内紹介パンフレットを自作した物を見てもらい説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回開催で実施している。事故報告時などに皆様からの質問やアドバイスを頂くことにより事故防止に役立たせて頂いている。また、今後台風などにおける自然災害についてもご意見を頂きたいと思っている。今期も昨年同様、コロナの関係でホーム内で職員と実施している	事業所の現状・活動状況について報告を行い、意見や助言をいただくようにしています。今年度も継続して書面開催となっている関係で、メンバーの方から地域の情報などはいただけない状況ではありますが、事業所の情報を発信することで、次ぎおう所の現状や取組みを把握していただけるよう努めています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	茅ヶ崎市の高齢福祉課の方に相談にのって頂いている。重度化するご利用者様にニーズに対して都度相談している。毎月、相談員の方に入居者様とコミュニケーションを持って頂いたりしていたが昨年同様コロナの関係で訪問が中止になっている。市の施設部会には状況により参加している。	不明点や事業所で判断しかねる事案が生じた際に、市の担当者に連絡して相談に乗っていただくなど協力関係の構築に努めています。以前までは毎月介護相談員の受け入れもありましたが、現在は中止しています。茅ヶ崎市の施設部会については、状況を鑑みながら参加するようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルを作成し実施している。3ヶ月に1回会議を行い、年2回身体拘束の研修を行っている。	身体拘束マニュアルを整備し、いつでも閲覧できるよう事務所に置いています。身体拘束研修については年2回学ぶ機会を設け、マニュアルや事例を基に具体的な行為や対応方法について意見交換を行うことで共通認識を図っています。また、身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、日々のケアにおいて、身体拘束に該当するケアがされていないか確認しています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事実はありません。高齢者虐待の研修を行い職員全員が理解を高める機会を作っている。	高齢者虐待防止法に関するマニュアルも整備しています。高齢者虐待防止法についても身体拘束と同様に年2回研修を実施し、虐待の種類や事例などを理解することで、虐待に該当する対応やケアが見過ごされることのないよう注意を払い、虐待防止に努めています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用した入居者を受け入れている。問い合わせにはケアマネが対応している。制度については職員全員の理解を高めるために、勉強の機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネ、センター長で対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所時に要望等がある場合は聞き取り、必要に応じて都度対応したり、カンファレンスで話し合い対応している。今期は行えなかったが家族会や行事開催時にも意見等を聞いて対応している。	契約時に重要事項説明書に明記している苦情相談窓口について説明しています。家族の来訪時や電話した際の近況報告と合わせて意見・要望を伺うようにしています。家族からの意見・要望は記録に残し、カンファレンスの議題に挙げて話し合った後に対応しています。今年度はコロナ禍のために開催できませんでしたが、家族会や行事後にも意見・要望を聞く機会を設けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや全体会議で意見の交換・対応について積極的に話し合い、改善を図っている。	職員の意見や提案は出退勤時、業務・休憩時間にも積極的にコミュニケーションを図ることで、忌憚なく意見や提案を表出できる雰囲気作りを心がけています。職員から吸い上げた意見・提案は職員会議の議題に挙げ、話し合ったうえで業務改善につなげています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就労条件の改善に努めている。市の介護職員処遇改善加算を活用している。	年1回以上は施設長との面談の場を設け、職員の勤務状況や実績、個人目標などについて評価と振り返りを行い、昇給昇格へ反映させています。また、法人のキャリアパスにより、職員が目標や意欲をもって働ける環境が整備されています。職員が仕事とプライベートを両立できるよう、シフト作成時には職員の希望を尊重しています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修報告を作成し、内部研修、外部研修などを積極的に参加できるように努めている。	職員の経験年数に応じて様々な研修参加を促し、スキルアップにつなげています。外部の研修案内も職員に周知し、参加希望者がいればシフト調整を行い、参加できるよう配慮しています。入職時にはOJTにて利用者の情報や業務の流れについて指導・教育を行っています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	茅ヶ崎市介護サービス事業者連絡協議会に登録している。協議会の中の地域密着部会に加入している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネが聞き取りをし、その情報を職員と共有し、そのかたの歴史や背景を知る事で、その方の気持ちを考えるようにし、不安を少なくするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネ・リーダーを中心に常に持てる時間を作って対応している。随時電話等でもご家族が納得できるような取り組みをしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に、生い立ちから現在までの流れをお聞きし、今後の対応法など見出している。常に必要な支援をあげ対応する様にしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に家族の一員としてとらえ、不安感を持たせないようにしている。出来る事があれば生活習慣としてやってもらっている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に健康状態を見極めて早めの対応をしています。家族と連絡を取りながら適切な介護を行っている。			
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・親類の方々の来所は見受けられますが、ご高齢に伴いご友人の来所は殆どなくなりました。	入居前面談で本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて情報の把握に努めています。家族には入居後も面会に来てくださいと声かけし、家族・親類・友人との関係が途切れないよう支援しています。馴染みの場所については、個別対応や家族に相談して時より足を運べるようにしています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	かるた・トランプなど入居者同士行っている。皆で歌を歌ったり、体操、ボール遊びなどをして連携している。また貼り絵、折り紙など文化祭に出品している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近ではご逝去で退居される方が多いため、ご遺族に寄り添うなお声掛けしている。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各人の特色を把握し個別対応を行っている。本人が納得するまでその行動を見守っている。	入居時に本人・家族・介護支援専門員から生活歴・既往歴・趣味嗜好・暮らし方の希望についてヒアリングを行い、アセスメントシートを作成しています。日々の関わりの中で現在の思いや意向の把握に努め、希望によっては支援計画に盛り込み、実現に向けて支援を行っています。		今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取りをした情報は、個人記録にファイルし職員がいつでも見れる状態にある。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過観察記録を記入し、申し送りを徹底し、カンファ時に話し合っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時の話し合いや提案をケアプランに反映させている。	入居時のアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成し、アセスメント情報と差異がないか様子を見ながら情報を更新していき、再度アセスメントを行っています。介護計画の見直し時には、担当者会議を開催し、職員の気づきや意見、家族の意見・要望、医師の見解とも加味しながら、介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、特記事項記入欄を設けている。申し送りノート、ヒヤリハット（気づき）ノートで共有、確認を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問医療、訪問看護、訪問歯科、訪問美容などの職種の方々にお取り組んでもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徒歩圏の商業施設「ランチ茅ヶ崎」の店舗で食事や買い物をして楽しんでいる。昨年同様、コロナの影響で自粛している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携を組んでいる訪問医療が月2回の往診となっており、24時間連絡及び指示がもらえる体制となっています。	契約時に事業所の協力医療機関について説明したうえで、本人・家族の希望を尊重して主治医を決めていただくようにしています。協力医療機関に切り替えている方は月2回の訪問診療を受けていますが、従来のかかりつけ医を継続されている方は、家族対応で通院しています。訪問看護師による体調管理も週2回あり、利用者の健康管理が行われています。訪問看護師とは24時間のオンコール体制を取っており、適宜サポートや助言が得られるようになっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を組んでいる近隣の訪問看護が週2回の訪問。24時間連絡が取れる体制で陰洗や褥瘡の処置方法から看取りの内容までアドバイスやサポートをしてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	クローバーホスピタル及び湘南東部総合病院と医療協力契約をとっています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の高齢化により毎年終末期を迎える方がいらしゃいます。入所時から終末期の指針の契約を取り交わし、ご家族と話し合う機会を設けています。ターミナルケアを行なった場合に訪問看護師主導でデスカンファも行なっています。	契約時に重度化した場合における指針を説明し、事業所の方針について理解していただいたうえで同意書を取り交わしています。重篤した場合に再度家族の意向を確認し、事業所で看取りを希望される場合は医師・家族・事業所で情報を共有しながら終末期ケアに取り組んでいます。ターミナルケアを行った際は、訪問看護師主導によるデスカンファレンスを行い、メンタルケアを行っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は事業所として報告のフローがあります。又主治医に連絡し、指示を仰ぎ訪問看護師と連携した対応を行ないます。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回実施の防災訓練に加えて、浸水想定区域となっていますので、水害に対する避難訓練も準備しています。自治会長参加の運営推進会議を利用して地域との協力体制を作っています。	年2回昼間および夜間を想定した火災・地震発生時の防災訓練を実施しています。また、事業所が浸水想定区域となっていることから、水害想定で垂直訓練も実施しています。備蓄品は水や食糧・衛生用品・懐中電灯・ラジオなども準備しています。地域とは、運営推進会議で協力体制について話し合っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「認知症ケア研修」で一人一人の人格の尊重や「接遇マナー」研修で接し方の理解をしています。OJTの中で先輩職員が指導を行なっています。	定期的な研修を行うとともに、申し送り会議などで、接遇・マナー・倫理について話し合う機会も設けています。利用者一人ひとりの人格や個性を尊重し、尊厳や自尊心を傷つけることのないよう、言動や対応に十分留意しています。また、個人情報や守秘義務についても周知徹底しています。居室への入室、排泄支援を行う際にはプライバシーや羞恥心に配慮して対応しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人が決定できるように声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活は本人の希望のに合わせている。ただレクリエーションや運動などは個別内容に対応するには職員数から困難である。散歩やお話し相手などでご家族のご協力なども得られている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じたの衣替えなどのご協力をご家族にお願いしている。定期的に訪問美容に来てもらいカットを行なっています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、メニューから作成し職員の手作りの料理を提供しています。片付けや洗い物などお手伝いしてもらいます。	食事のメニューは自前で作成しており、食材などは生協に注文して購入しています。食事のメニューを自前で作成していることから、利用者の希望なども取り入れた食事提供も可能であることは事業所の特色の1つでもあります。行事の際には出前を取ったり、季節にちなんだ食事を提供するなど、食事を楽しめるよう支援しています。できる方には片付けなどを手伝っていただき、残存能力の維持につなげています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タブレット端末を利用して個人記録を記入している。施設内のみならず本社においても摂取回数や量など内容が確認できるシステムとなっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が声掛けをしたりお手伝いしながら、毎食後の口腔ケアをしている。週に1度訪問歯科の衛生士による確認と指導があります。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間による排泄の声掛けをしている。個々の排泄のサインを職員が見逃さないように注意している。カンファを通じて情報を共有しています。	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄状況の把握し、時間やタイミングを見計らった声かけによるトイレ誘導で、排泄の自立に向けた支援を心がけています。失敗を減らせるよう、カンファレンスやモニタリングで支援方法を検討しながら支援を行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を心掛け、摂取量を個人記録に記入している。根菜類や寒天などを食材に取り入れている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ユニットごとの入浴。最低でも週2回利用者の状況に応じて入浴して頂いている。	入浴は週2回、午後からの入浴を基本としています。安全かつ安心して入浴していただくためにも、事前にバイタルチェックと本人の意向を確認してから入浴を促しています。重度化した方はシャワー浴や清拭対応で清潔の保持に努めています。季節のゆず湯や菖蒲湯にて季節感を感じていただけるように支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事時間は決まっているがご本人の状態に合わせて食事の時間をずらしたりしている。眠そうな時はお部屋で休んでいただく。夕食後はその方のペースに合わせてナイトケアをし、各居室やリビングで自由に過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の居宅管理指導の下、間違いのないように投薬をしている。薬情報のファイルを職員の見やすい所に置き、直ぐに調べられるようにしている。変化があった場合、申し送りノートで情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人のお好きな事をやっていただくようにしている。掃除の手伝い、洗濯物たたみ等個人の能力や体調を考えそれに合った事をやっていただいている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣に広い公園があるので気候の良い時は職員と散歩していただいている。側にある商業施設の飲食店にご家族と外出されている。外食イベントを年に数回開催している。昨年同様、コロナの影響で自粛しているが、系列施設からハイエースを2台借りてお花見ドライブを実施した。	天気や気候の良い日には、近隣にある公園まで散歩にお連れするなどして、外気に触れる機会を設けています。現在は新型コロナウイルスの影響で人混みの多い場所への外出は自粛していますが、以前は近隣の商業施設や季節の外出行事で、花見・寒川の菊祭りにも出かけていました。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の為、お金の自己管理は難しいので、お小遣いを預かり、そのお金で買い物をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば、かけれます。ご家族からの電話も取次の支援をしております。ご家族様からの手紙のやり取りは状況に応じて代筆したりしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションで作成したもので、季節に合った飾りつけをしている。トイレの場所が分かるように馴染みのある言葉の案内掲示をしている。室温計、空気清浄機をリビングに設置している。	リビングは皆で過ごす空間であることから、整理整頓を心がけ、利用者の動線の妨げにならないよう留意しています。また、室温や採光などの調整も職員によって管理され、快適に過ごせるよう配慮しています。壁面には、レクで作成した作品や季節にちなんだ装飾を飾るなどして、雰囲気や季節感を大切にしています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間は自由に使えるのでほとんどの方はそこで過ごしている。一人になりたい時や眠い時などは居室で過ごしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を居室に設置したり、写真や絵を飾っている。	各居室にはベッド、ローボード、カーテン、吊り棚が完備されています。自宅の延長として生活していただくためにも、使い慣れた物や馴染みの品々を持ち込んでいただくことを入居時に伝えています。家具などの配置も、自宅に近い雰囲気となるよう、動線に配慮しながら設置しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、安全に1人で歩行できるようにしている。トイレはドアではなくアコーディオンカーテンで1人でも出入りできるようにしている。居室には名札を付け自分の部屋が分かるようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

茅ヶ崎松尾グループホームそよ風

作成日

令和4年2月18日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	入居者様の高齢化が進んでいる為、終末期の在り方について職員の意識を深める必要がある。	職員全員が終末期ケアを意識できる体制づくり。	昨年度より継続で社内研修にて意識を高める。医療関係者、家族との話し合いをする。	令和4年4月より1年間
2	13	管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングをしていくことを進めている。	職員一人ひとりのケアの質を向上させる。	内部及び外部の研修に積極的に参加できる様にする。	令和4年4月より1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	茅ヶ崎松尾グループホームそよ風
ユニット名	B

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		4. ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を共有し、常にカンファレンス・全体会議などで話し合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中学校(市立西浜中学校)の研修(職場体験)を毎年受入れているが昨年度からコロナの影響で実施できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症、グループホームについて電話や訪問者に対して質問等に対応している。いつでも見学出来る態勢が出来ている。必要に応じて地域包括センターを紹介することが出来る。本年度もコロナの影響で一部分の見学になる為、施設内紹介パンフレットを自作した物を見てもらい説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回開催で実施している。事故報告時などに皆様からの質問やアドバイスを頂くことにより事故防止に役立たせて頂いている。また、今後台風などにおける自然災害についてもご意見を頂きたいと思っている。今期も昨年同様、コロナの関係でホーム内で職員と実施している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	茅ヶ崎市の高齢福祉課の方に相談にのって頂いている。重度化するご利用者様にニーズに対して都度相談している。毎月、相談員の方に入居者様とコミュニケーションを持って頂いたりしていたが昨年同様コロナの関係で訪問が中止になっている。市の施設部会には状況により参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルを作成し実施している。3ヶ月に1回会議を行い、年2回身体拘束の研修を行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事実はありません。高齢者虐待の研修を行い職員全員が理解を高める機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用した入居者を受け入れている。問い合わせにはケアマネが対応している。制度については職員全員の理解を高めるために、勉強の機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネ、センター長で対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所時に要望等がある場合は聞き取り、必要に応じて都度対応したり、カンファレンスで話し合い対応している。今期は行えなかったが家族会や行事開催時にも意見等を聞いて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや全体会議で意見の交換・対応について積極的に話し合い、改善を図っている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就労条件の改善に努めている。市の介護職員処遇改善加算を活用している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修報告を作成し、内部研修、外部研修などを積極的に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	茅ヶ崎市介護サービス事業者連絡協議会に登録している。協議会の中の地域密着部会に加入している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネが聞き取りをし、その情報を職員と共有し、そのかたの歴史や背景を知る事で、その方の気持ちを考えるようにし、不安を少なくするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネ・リーダーを中心に常に持てる時間を作って対応している。随時電話等でもご家族が納得できるような取り組みをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に、生い立ちから現在までの流れをお聞きし、今後の対応法など見出している。常に必要な支援をあげ対応する様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に家族の一員としてとらえ、不安感を持たせないようにしている。出来る事があれば生活習慣としてやってもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に健康状態を見極めて早めの対応をしています。家族と連絡を取りながら適切な介護を行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・親類の方々の来所は見受けられますが、ご高齢に伴いご友人の来所は殆どなくなりました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	かるた・トランプなど入居者同士行っている。皆で歌を歌ったり、体操、ボール遊びなどをして連携している。また貼り絵、折り紙など文化祭に出品している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近ではご逝去で退居される方が多いため、ご遺族に寄り添うなお声掛けしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各人の特色を把握し個別対応を行っている。本人が納得するまでその行動を見守っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取りをした情報は、個人記録にファイルし職員がいつでも見れる状態にある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過観察記録を記入し、申し送りを徹底し、カンファ時に話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時の話し合いや提案をケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、特記事項記入欄を設けている。申し送りノート、ヒヤリハット（気づき）ノートで共有、確認を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問医療、訪問看護、訪問歯科、訪問美容など他の職種の方々にお取り組んでもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徒歩圏の商業施設「ランチ茅ヶ崎」の店舗で食事や買い物をして楽しんでいる。昨年同様、コロナの影響で自粛している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携を組んでいる訪問医療が月2回の往診となっており、24時間連絡及び指示がもらえる体制となっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を組んでいる近隣の訪問看護が週2回の訪問。24時間連絡が取れる体制で陰洗や褥瘡の処置方法から看取りの内容までアドバイスやサポートをしてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	クローバーホスピタル及び湘南東部総合病院と医療協力契約をとっています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の高齢化により毎年終末期を迎える方がいらしゃいます。入所時から終末期の指針の契約を取り交わし、ご家族と話し合う機会を設けています。ターミナルケアを行なった場合に訪問看護師主導でデスカンファも行なっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は事業所として報告のフローがあります。又主治医に連絡し、指示を仰ぎ訪問看護師と連携した対応を行ないます。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回実施の防災訓練に加えて、浸水想定区域となっていますので、水害に対する避難訓練も準備しています。自治会長参加の運営推進会議を利用して地域との協力体制を作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「認知症ケア研修」で一人一人の人格の尊重や「接遇マナー」研修で接し方の理解をしています。OJTの中で先輩職員が指導を行なっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人が決定できるように声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活は本人の希望に合わせている。ただレクリエーションや運動などは個別内容に対応するには職員数から困難である。散歩やお話し相手などでご家族のご協力なども得られている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じたの衣替えなどのご協力をご家族にお願いしている。定期的に訪問美容に来てもらいカットを行なっています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、メニューから作成し職員の手作りの料理を提供しています。片付けや洗い物などお手伝いしてもらいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タブレット端末を利用して個人記録を記入している。施設内のみならず本社においても摂取回数や量など内容が確認できるシステムとなっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が声掛けをしたりお手伝いしながら、毎食後の口腔ケアをしている。週に1度訪問歯科の衛生士による確認と指導があります。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間による排泄の声掛けをしている。個々の排泄のサインを職員が見逃さないように注意している。カンファを通じて情報を共有しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を心掛け、摂取量を個人記録に記入している。根菜類や寒天などを食材に取り入れている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ユニットごとの入浴。最低でも週2回利用者の状況に応じて入浴して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事時間は決まっているがご本人の状態に合わせて食事の時間をずらしたりしている。眠そうな時はお部屋で休んでいただく。夕食後はその方のペースに合わせてナイトケアをし、各居室やリビングで自由に過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の居宅管理指導の下、間違いのないように投薬をしている。薬情報のファイルを職員の見やすい所に置き、直ぐに調べられるようにしている。変化があった場合、申し送りノートで情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人のお好きな事をやっていただくようにしている。掃除の手伝い、洗濯物たたみ等個人の能力や体調を考えそれに合った事をやっていただいている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣に広い公園があるので気候の良い時は職員と散歩していただいている。側にある商業施設の飲食店にご家族と外出されている。外食イベントを年に数回開催している。昨年同様、コロナの影響で自粛しているが、系列施設からハイエースを2台借りてお花見ドライブを実施した。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の為、お金の自己管理は難しいので、お小遣いを預かり、そのお金で買い物をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば、かけれます。ご家族からの電話も取次の支援をしております。ご家族様からの手紙のやり取りは状況に応じて代筆したりしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションで作成したもので、季節に合った飾りつけをしている。トイレの場所が分かるように馴染みのある言葉の案内掲示をしている。室温計、空気清浄機をリビングに設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間は自由に使えるのでほとんどの方はそこで過ごしている。一人になりたい時や眠い時などは居室で過ごしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を居室に設置したり、写真や絵を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、安全に1人で歩行できるようにしている。トイレはドアではなくアコーディオンカーテンで1人でも出入りできるようにしている。居室には名札を付け自分の部屋が分かるようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

茅ヶ崎松尾グループホームそよ風

作成日

令和4年2月18日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	入居者様の高齢化が進んでいる為、終末期の在り方について職員の意識を深める必要がある。	職員全員が終末期ケアを意識できる体制づくり。	昨年度より継続で社内研修にて意識を高める。医療関係者、家族との話し合いをする。	令和4年4月より1年間
2	13	管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングをしていくことを進めている。	職員一人ひとりのケアの質を向上させる。	内部及び外部の研修に積極的に参加できる様にする。	令和4年4月より1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。